

令和3年7月

令和3年度 自己評価結果

ひがしこども園

今年度は昨年度に引き続き「子どもの主体的遊び」について参考文献を用いて学びを深めるとともに、子どもの身体能力を高めるために必要な遊びや、環境についてリモート研修を利用して職員研修の場とした。近年自園に「ちょっと気になる子」が増え、そういった園児の対応・援助の仕方を職員間で共通理解を持つために「子どもの困り感と大人の困り感」についての研修を行い、ひがしこども園の職員として、「子どもの困り感」に視点をおき見守る保育を大切にしていこうと話し合いまとめとなった。

「子どもの困り感」に添っていくにあたって、不の言葉かけなど各自の保育の振り返りや意識の向上の再確認の機会とした。内容は昨年度と同じ物とし、前年度からの改善の確認ができるようにした。

- ① それぞれの項目についてチェックし（A～できている、B～ほぼできている、C～できていない）、B、C評価の理由及び改善策を考えた。

各自の振り返りと合わせて、他の人の気づきを自分の中に取り込んでいき、各自の資質向上へとつなげていく。

- ② 各項目についての気づき（B,C評価の理由及び改善策から）

『法人及びこども園の基本』

- ・常に確認できる場に掲示しておく。
- ・おおまかな理解であり、もっと意識して仕事に取り組まなくてはと思う。
- ・日々の保育活動のための指導案が主となり、理念を振り返って内容の基本となるように考えていなかったのが再確認し理解をしていく。
- ・地域に目を向けることができていないと改めて思う。

『勤務』

- ・時間を気にした生活を心掛ける。
- ・ぎりぎりになって慌ててしまう。もっと時間に余裕をもって行動できるようにしたい。
- ・時間ギリギリの出勤、5～10分前行動ができるよう意識していく。

<服装・身だしなみ>

- ・髪の毛の色は、色落ちし明るくなる前に暗い色にしていく。
- ・勤務日の平日と休日の切り替えをきちんとする。
- ・常に振り返り、きちんと行えるようにしていく。
- ・行事に合った服装という点において、今一度考えていきたい。

- ・キャラクター物は購入時に気をつけたい。保育者自身が人的環境となり、子どもに影響を及ぼすので場にあった服装を心掛ける。

<早番で気をつけていること>

- ・段取り良くスムーズに準備をする。
- ・子どもにも保護者にも笑顔で受け入れる。安心して出勤できるように。
- ・明るく元気に「おはようございます」とこちらから挨拶を心掛ける。
- ・視診をし健康状態や伝言を受けたことを担任に忘れずに伝える。
- ・子どもが怪我をしないように、万遍なく見ていく。
- ・人数確認をして見落としのないようにする。

<遅番で気をつけていること>

- ・怪我をしないように万遍なく周りを見ていく。園庭や舎内の点検をする。
- ・おもちゃの出しすぎに、声をかけたり片付ける。
- ・担任からの連絡を保護者に忘れないように伝えたり、保護者からの連絡を受け取り、伝え忘れのないようにする。
- ・体調の変化に気づけるよう、気をつけて見る。
- ・どの子ども関りがもてるように心掛け、年齢に合わせた言葉のかけ方をする。
- ・お迎えに来た保護者に、一言必ず声をかける。知らぬ間に帰ってしまったということのないように。
- ・鍵（施錠されているか）の確認をする。

『挨拶』

- ・子どものモデルになれるよう心掛けたい。
- ・つい大きな声になってしまう。近づいて行って声をかけるよう心掛けたい。
- ・誰が土曜保育に出勤されたか確認し、言い忘れのないようにしたい。

『書類』

- ・メモや付箋を貼るなどして提出忘れを防ぐ。また、期日・期限をわかりやすくし、早めに提出することを心掛ける。
- ・後回しにせず早めに取り組む。
- ・もう少し丁寧に書けるよう心掛けたい。

『出張報告』

- ・文面のみになっていることが多いので、速やかに口頭での報告もするよう心掛けたい。

『職種別仕事』

<保育>

- ・事前に試すことがなかなか難しいが、食育活動は調理が主なので、手順の確認をきちんと行う。

- ・季節感のある環境づくりや保育準備など反省するところあり。
余裕をもってできるよう早めの計画・早目の準備を心掛けたい。
忙しいとつい整頓するのが疎かになってしまう。保育室を出る時は振り返り、できているか確認をしてから帰るように気をつけたい。
- ・花の水替えや生き物の世話～忘れがち。気を付けて行っていきたい。

『子どもとのコミュニケーション』

- ・大人の困り感で注意を行っていたので、子どもの視点に立ち気持ちを受け止め、本当に求めていることは何なのかを見守る。
- ・自分の気持ちの余裕次第で、待たせてしまったり、否定的な言葉を使ってしまう、後からハッとさせられることがある。
- ・なるべく否定的な言葉は使わないようにと思っているが、「だめ!」「あぶない!」「やめてね!」などの言葉が出てしまう。
「走らない」ではなく「歩こうね」と言い換えて伝えていく。
- ・子どもに笑顔で接するようにし、自分のことは「わたし」と言うように意識している。

『保護者対応』

- ・どの保護者にも声掛けをするようにし、要件を伝えるだけでなく、その子の様子など一言伝え、保護者との距離を少しでも縮めていく。
- ・ポイントを押さえて伝えているつもりだが、伝わっているか心配になることがある。保護者が心地よく預けられているか、日々考えて取り組んでいる。

栄養士・給食室にいるため、保護者との関わりがほぼない。しかし、アンケートの回答で気になるものがあり、そういった回答の保護者の確認や相談の内容を把握し理解した上で結果とともに改善策のアドバイスをしていく。

『研修及び資質の向上』

- ・コロナの影響で研修の機会が減ったため自分の人間性を高めるための自己研修に努めたい。
- ・目下うまく時間が作れてないが、与えられた機会をこなすだけではいけないと思う。
- ・学んできたことを実践したり、みんなに伝えることにより、自分のものに（確かな力に）していきたい。
- ・スキルアップできるよう、自ら様々な研修に目を向け学べるよう積極的に参加していきたい。

③ 自己評価をしての感想・課題・解決策

- ・いろいろな項目を読んで（一つ一つの項目が具体的に示されていて確認しやすい）、改めて再確認ができた。
- ・細かな部分で心掛けが足りない点があり、自己評価表を時々確認し、意識をもてるよ

うにしていく。

- ・慣れてくると意識が薄くなりがちなうえ、忘れていることもあるので、自己評価で振り返る事で思い出したり、調べる良い機会になった。
- ・精一杯の毎日であるが、園の中がうまく機能するようミドルリーダー的存在としての役割も意識して取り組んでいく。
- ・気持ちをコントロールすることや研修での学びを実践に活かせるようにしていく。
- ・常に基本を大事にし、心の中心に置いて、仕事に臨む。
- ・基本理念や方針を時々振り返り、保育教育に臨む。
- ・保育研究・教材研究を行うことや、社会のことにもアンテナを高くしていく。
- ・しっとりとした保育ができるよう心掛けたい。
- ・周りとのコミュニケーションを積極的にとり、信頼関係を築いていく。
- ・保育・教育についての学びを深める。
- ・文章力が身につくよう努力する。
- ・保育の仕事は甘くはなく、学びを深め、自信がもてるよう頑張りたい。
- ・地元で保護者との知り合いが多く気軽に話ができるのは良いが、なれ合いにならぬよう気をつけていく。

④ 園全体で取り組んでいきたいこと

- ・保育観のズレが生じないよう、職員会議以外のグループごとの話し合いの時間も作っていききたい。
- ・こども主体の保育をつくっていくには、大人の声をまず小さくすることから徹底したい。
- ・こども園になり保護者の層も多様になった。改めて保護者支援について、みんなで考えたい。
- ・仕事の見える化をはかり、時間や役割を考えてスムーズに行えるようにしたい。
- ・実践的な研修会短時間で行ってほしい。
- ・リモート・オンライン研修を利用して非常勤職員も参加可能な研修をこれからも行ってほしい。